



熊本市 感染症発生動向調査 速報



● 感染症の感染経路について

もともとこの季節は感染症の発生が少ない時期ですが、下記の発生動向調査で報告されている感染症は例年より少なくなっています。新型コロナウイルス感染症が国内発生では増加しているなかで、市民の皆さまがきちんと**3つの密を避け、こまめな手洗い、消毒、咳エチケット**を守っていただいている効果の表れかもしれません。市民の皆さまには、引き続き、根気強く、感染防止に努めていただきますようお願いいたします。

感染症の主な感染経路

①**飛沫感染**: 感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、病原体が含まれた小さな水滴(飛沫)が口から飛び、これを近くにいる人が吸い込むことで感染します。飛沫が飛び散る範囲は1~2mです。〈主な病原体〉**細菌**: A群溶血性レンサ球菌、百日咳菌、インフルエンザ菌、肺炎球菌、肺炎マイコプラズマ 等 **ウイルス**: 新型コロナウイルス(COVID-19)、インフルエンザウイルス、RSウイルス、アデノウイルス、風しんウイルス、ムンプスウイルス、エンテロウイルス、麻しんウイルス、水痘・带状疱疹しんウイルス 等

②**空気感染(飛沫核感染)**: 感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に口から飛び出した小さな飛沫が乾燥し、その芯となっている病原体(飛沫核)が感染性を保ったまま空気の流れによって拡散し、それを吸い込むことで感染します。飛沫感染の感染範囲は飛沫が飛び散る2m以内に限定されていますが、空気感染は室内等の密閉された空間内で起こるものであり、その感染範囲は空調が共通の部屋間等も含めた空間内の全域に及びます。〈主な病原体〉**細菌**: 結核菌 等 **ウイルス**: 麻しんウイルス、水痘・带状疱疹しんウイルス 等

③**接触感染**: 感染源に直接接触することで伝播がおこる感染(握手、だっこ、キス等)と汚染された物を介して伝播がおこる間접接触による感染(ドアノブ、手すり、遊具等)があります。通常、接触感染は、体の表面に病原体が付着しただけでは感染は成立しませんが、病原体が体内に侵入することで感染が成立します。病原体の付着した手で口、鼻又は眼をさわること、病原体の付着した遊具等を舐めること等によって病原体が体内に侵入します。また、傷のある皮膚から病原体が侵入する場合があります。〈主な病原体〉**細菌**: 黄色ブドウ球菌、インフルエンザ菌、肺炎球菌、百日咳菌、腸管出血性大腸菌 等 **ウイルス**: 新型コロナウイルス(COVID-19)、ノロウイルス、ロタウイルス、RSウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルス、風しんウイルス、ムンプスウイルス、麻しんウイルス、水痘・带状疱疹しんウイルス、インフルエンザウイルス、伝染性軟属腫ウイルス 等

④**経口感染(糞口感染)**: 病原体を含んだ食物や水分を口にすることによって、病原体が消化管に達して感染が成立します。食事の提供や食品の取扱いに関する通知、ガイドライン等を踏まえ、適切に衛生管理を行うことが重要です。〈主な病原体〉**細菌**: 腸管出血性大腸菌、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、カンピロバクター属菌、赤痢菌、コレラ菌 等 **ウイルス**: ロタウイルス、ノロウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス 等

期 間		2020年 15週		2020年 16週	
		4/6~4/12		4/13~4/19 (最新)	
疾患名 <small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		1	0.04	0	0.00
RSウイルス感染症		1	0.06	0	0.00
咽頭結膜熱(プール熱)		7	0.44	5	0.31
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		21	1.31	12	0.75
感染性胃腸炎		16	1.00	21	1.31
水痘(みずぼうそう)		6	0.38	2	0.13
手足口病		7	0.44	4	0.25
伝染性紅斑(りんご病)		3	0.19	4	0.25
突発性発しん		18	1.13	14	0.88
ヘルパンギーナ		0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		0	0.00	1	0.06
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		3	0.60	5	1.00
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		2	0.40	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00